

E71

中廊下型の宿泊施設を住居の離れとする用途転用計画

Project for conversion into Annex of house from accommodation of inside passage type

西田 司 (助手)

小泉 雅生 (助教授)

深尾 精一 (教授)

Osamu NISHIDA (Res. Assoc.), Masao KOIZUMI (Assoc. Prof.)

And Seiichi FUKAO (Prof.)

ABSTRACT

Project that leaves for one layer in structural building frame and rebuilds staying building in pension. It regenerates with the composition of making the best use of the feature of staying building of the inside passage type, dividing into internal space and outside space, and covering it with new film (Structural film, Environmental adjustment film) including the roof.

キーワード：用途転用 構造皮膜 環境調整皮膜

Keywords: Conversion, Structural film, Environmental adjustment film

1. 本研究の目的

ペンションの宿泊棟を構造躯体1層分残して改築するプロジェクト。中廊下型の宿泊棟という平面形式を内部の活動領域と外部の活動領域に2分しながら、全体としては木造在来構法の柱・梁を、屋根を含めた新たな建築的皮膜（構造皮膜、環境調整皮膜）で覆うという構成で作り返している。建築的皮膜に設けられた開口部とパッチワーク状に貼り込まれた素材パターンが一つの帯を成し、それにより内側からは周囲との関係性を表象させ、外側からは独立した内外の活動領域を包括する全体性を獲得するという木造在来工法の改築における設計手法の実践的研究である。

2. 研究概要

2.1 現況

既存建物は、2階建てのペンションの宿泊棟（延床面積100坪）であり、中廊下型で左右に宿泊室（3.4M x 2.9M）が同じ並びで配されている。

2.2 既存利用

宿泊棟を、母屋と接続している箇所を切り離し、既存の1階部分を利用して住宅の離れとして生まれ変わらせる。基礎、土台、柱、1階筋交、2階床梁を残して、外壁や内部間仕切り壁、2階以上の柱、梁、屋根を一度全て取り除き、その上で新たに構造的補強や環境的補強を行う。

2.3. 用途変更に伴う平面利用

中廊下型の宿泊棟という平面特性を生かし、廊下を挟んで片側を新しい離れの内部の活動領域（板間、内土間、和室、書斎など）もう片側を新しい離れの外部の活動領域（外土間）と、2分する。それによりどの部屋も外と内との関係から、空間



写真1 既存宿泊棟外観

の特性を決定することが可能となる。

3.1 設計概要1（構法）

既存の2階床梁の上にさらに新規の小屋組をトラス状に独立させて組むことにより、新規の屋根をかける。既存の外回りの基礎、柱組の更に外側に新たに壁下地を組むことで、新規の外壁をつくる。それにより新規の屋根と外壁が、既存の軸組を外からくりと覆うような構成となる。この外から覆う建築的皮膜（屋根及び外壁）を用いて構造補強並びに環境調整を行う。

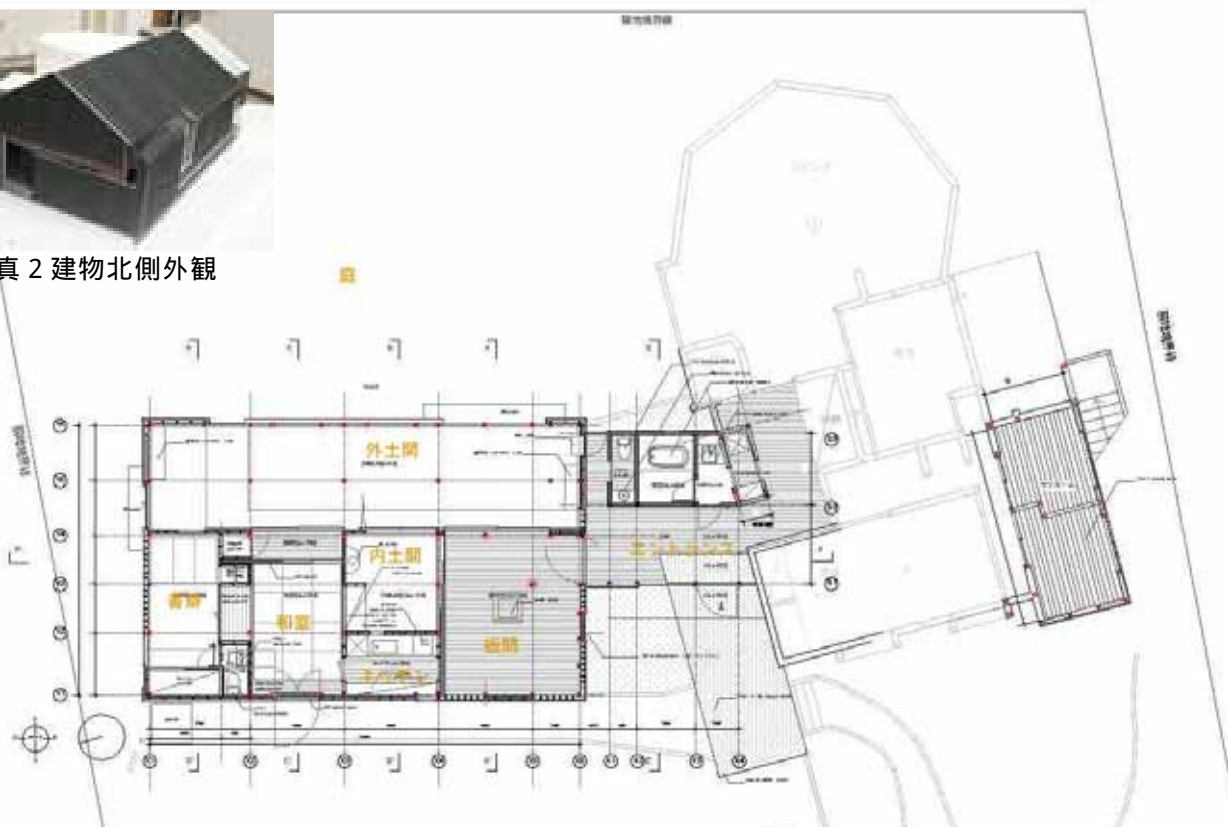
3.2 設計概要2（室配列、皮膜の帯状開口部）

2分した土間との関係から、各室の特性を決める。使い方により窓のサイズや高さの違いが生まれる。また、建築的皮膜に対しても開口部を開けていき、庭を眺める開口や光を取り込む開口など、内部環境を調整していく。それらの皮膜に開けられた開口部は、一つながりとなってゆき、素材パターンとともに一筆の帯状に建物の外観を巡る。元々の中廊下型宿泊棟という平面や軸組を生かしながら、少ない建築的操作で多様な空間を生

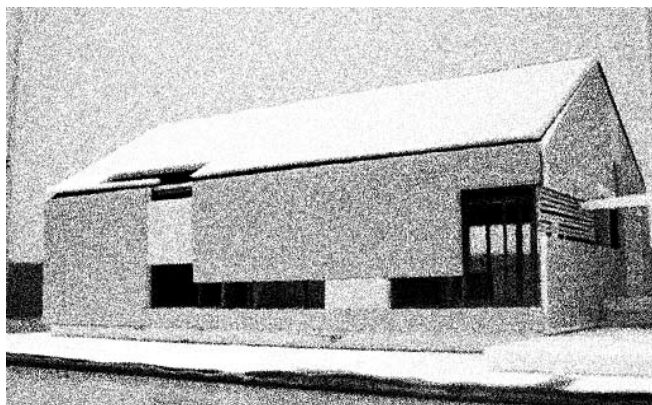
み出している。



写真2 建物北側外観



1階平面図



左上より時計回りに、写真3 / 土間を介して庭を眺める。写真4 / 道路側外観。壁面から屋根面へと連続する開口部。写真5 / 左が書斎、右が和室。書斎は、土間に対して閉鎖的な表情をとり、和室は土間と縁を介して連続する。写真6 / 内観スケッチ。板間からは内土間と外土間が望める。写真7 / 土間内観。左が庭に対しての開口。右に和室、内土間、板間と並ぶ。既存のペンションの名残を受けて、土間には、

柱、梁、基礎が、もともとの客室の位置に等しいピッチで現れてくる。